

コシンジュガヤ *Scleria parvula* Steud.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 13。湿地に生育する植物で、愛知県ではもともとそれほど多くなかったが、近年特に見かける機会が減少している。

【形態】

1年生草本。根は赤紫色になる。茎は細く、斜上して広がり、長さ 30~120cm になる。葉は茎につき、長さ 5~35cm、幅 2~7mm、葉鞘は長さ 1.5~7.5cm で広い翼があり、幅 1.5~8mm になる。花序は茎の先端と葉腋につき、長さ 1.5~4cm、腋生のものには長い柄がある。果実は球形、直径 2mm 前後、熟しても白色~淡灰褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具 (小林 32264, 1987-9-19)、6 設楽西部 (芹沢 57093, 1990-9-13)、11 作手 (芹沢 57889, 1990-10-20)、13 豊川 (芹沢 60567, 1991-9-30)、15 豊橋北部 (芹沢 53531, 1989-9-25)、17 田原東部 (芹沢 53636, 1989-9-27)。西：5 稲武 (芹沢 50243, 1988-9-10)、19 旭 (山崎玲子 941, 1994-9-18)、21 下山 (芹沢 87866, 2012-9-12)、22 小原 (日比野修 3146, 1995-9-19)、23 藤岡 (日比野修 595, 1992-8-1)、24 豊田東部 (芹沢 50549, 1991-9-29)、36 西尾南部 (芹沢 60794, 1991-10-9)。尾：37a 瀬戸 (日比野修 809, 1992-9-12)、44a 美浜 (芹沢 77609, 2001-9-13)、50 名古屋北部 (芹沢 53843, 1989-10-10)。

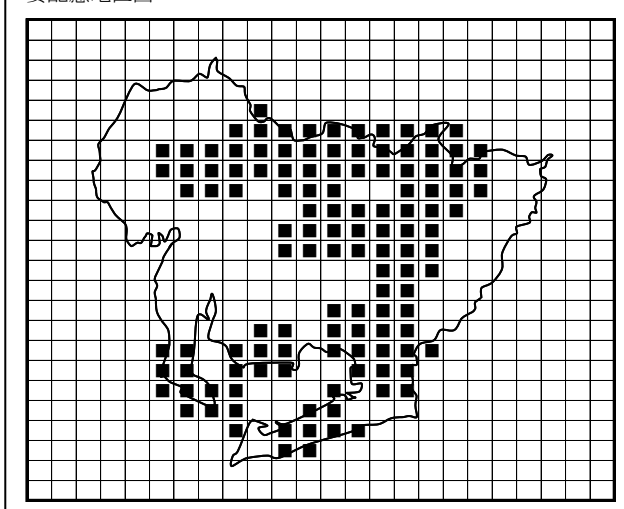
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本~インド、アフリカ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、しかし中央部ではなく、周辺部の泥質の場所に生育することが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在していたが、どこも個体数は少なかった。最近は見られる機会が減少しており、生育状況は十分確認されていない。遷移の進行が減少の主要因と思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の湧水湿地は全体に遷移が進行しており、周辺部には樹木が侵入していることが多い。遷移の進行自体は自然現象で、もとはといえば新しい湿地が形成されなくなったことが問題なのだが、現実問題として丘陵地の崩壊地を放置しておくわけにはいかない。新たな湿地の形成が期待できないならば今ある湿地を保全しなければならないが、保全活動は一方で踏み荒らしなどの影響を与えるおそれがある。

【関連文献】

保草本III p.249, 平草本 I p.169, 平新版 I p.361.